

2022年度業務実績報告書

提出日 2023年 1月 13日

1. 職名・氏名 学術教養センター助教 根田恵多
2. 学位 学位 修士(学術)、専門分野 憲法学、授与機関 早稲田大学、授与年 2013
3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 国際社会と法（2単位）1年生 教養特講 H（国際社会と法）（2単位）2・3年生</p>
<p>②内容・ねらい 国際社会の諸問題（領土、ジェンダー、人種差別、環境、戦争、AI など）について、「法的思考」を用いて考えた。受講生が国際社会の一員として、様々な問題について主体的に考え、自分の意見を論理的・説得的に展開できるようになることを目標とした。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 最近のニュースを導入としたり、映像資料を用いたり、映画や音楽などのサブカルチャーを取り上げることによって、受講生が「国際社会」を身近なものと感じることができるよう工夫した。また、ワークシートを配布することで、受講生が授業内容についてのメモをとり、教員が設定した問いに対する自分の見解を記すことを促した。各受講生が提出したワークシートに対して、毎回 Google Classroom 上でコメントを返すことによって、授業内容の定着度の確認・復習ができるようにした。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 日本国憲法（2単位）1・2・3年生</p>
<p>②内容・ねらい 「実際に社会で生じている憲法問題について、自ら考え、自らの言葉で説明できるようになること」を目標に、日本国憲法の主要な論点についての講義を行った。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 教職科目であることも踏まえ、学校や教育現場における憲法問題を重点的に取り上げた。自らの言葉で論じる力を身につけることができるように、毎時間、憲法にまつわる実際の事件や架空の事例についての問いを学生に投げかけた。Google Classroom で、その問いについて「自分はどう考えるか」を記入してもらい、翌週の講義の際に受講生のコメントや質問を紹介しながら論点についての解説を行うことで、アクティブラーニングの実践を図った。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 法学（2単位）1・2・3年</p>
<p>②内容・ねらい 憲法・民法・刑法などの法についての基本的な内容を講義した後に、日本社会における様々な社会的事象・トピック（暴力、ジェンダー、薬物、スポーツ、リスク社会等）を取り上げて法的な観点から考察した。学期の終盤には、県立大学の各学部の学習内容と法を関連付ける講義を行った。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 受講生 154 名の大講義であったが、Think Pair Share と呼ばれるアクティブラーニングの技法を取り入れ、受講生同士で法的問題について話し合う時間を多く確保した。受講生の中から出た意見をクラス全体に共有し、さらに教員が解説を加えることで、受講生が深く考察できるように工夫した。</p>

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
現代人権論（2 単位）1・2・3 年

②内容・ねらい

現代社会における種々の人権問題を多様な視点から分析し、その本質や解決策について解説した。授業は、オムニバス形式で、各回の講義は、法律、哲学、社会福祉など様々な学問分野の専門家が担当した。全 15 回のうち 5 回の講義を担当し、人権の基本理念と、現代的なトピック（多文化共生、忘れられる権利、貧困など）についての解説を行った。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

「人権問題の解決策について自分なりの意見をもつ」という授業目標を実現するために、毎回課題を設定し、受講生が現代的な人権問題について深く考えることができるようにした。人権問題について多様な視点から考えることができるように、女性・子どもの人権の問題に取り組む NPO 法人の代表（つるが CAP・藤野明美氏）、奴隷制の専門家（信州大学・小池洋平准教授）という 2 名の外部講師を招いた。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
導入ゼミ（論理的な文章を書こう）（2 単位）1 年生

②内容・ねらい

大学生活で必要となる基本的な文章作成能力の習得をねらいとし、アカデミックライティングについてゼミ形式で実践的に学んだ。一文一義、接続表現、論点整理、全体構成、参考文献といったアカデミックライティングの基礎について解説し、練習問題に取り組むことを通して、受講生が学んだ知識を使いこなせるようになることを目指した。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

毎回 400 字程度の課題作文（例：「安全な社会と」は何か、福井県立大学のグローバル化を推進するためには何が必要か、等）を出し、受講生に各回で学んだことを実践してもらった。全員の課題作文を添削し、その中から 2～3 本を「模範文章」として選び、次の授業の冒頭で紹介した。その際、「模範文章」に選ばれる受講生が偏らないように、全受講生が 1 回以上選ばれるように配慮した。

①担当科目名（単位数）
主たる配当年次等 教養ゼミ（リーガルマインドを身につけよう）（2 単位）1 年生

②内容・ねらい

法的思考の基本を身につけ、現実社会の問題について法的思考を用いて分析することを目標に、ゼミを行った。授業の前半では、法学についての初学者向けの書籍を輪読し、討論した。その後、受講生を 3～4 人ずつの班に分け、班ごとに判例についての報告を行ってもらった。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

ゼミでの発表やレジュメの作成に慣れていない 1 年生が対象の授業であるため、それらの基本的スキルを身につけられるように、初歩的な内容から丁寧に指導した。「法」を身近に感じることができるように、福井地方裁判所での裁判傍聴・裁判見学も行った。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等
学術ゼミ（法学）E・F（2 単位）2・3・4 年生

②内容・ねらい

法的問題についての知見を深めること、文献を批判的・分析的に読む力を身につけること、口頭発表・レポートにおいて自らの主張を論理的に展開する技術を磨くことを目標に、法学文献の輪読や判例についての討論を行った。最後の授業では、受講生に各自で調べた法的問題についての発表を行ってもらい、議論した。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ゼミ生の希望にあわせて柔軟に内容を変更しながら授業を運営した。「法」を身近に感じることができるよう、福井地方裁判所での裁判傍聴・裁判見学も行った。
(2)その他の教育活動

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①著書 【0本】
②学術論文（査読あり） 【0本】
③その他論文（査読なし） 【0本】
④学会発表等 【0件】
⑤その他の公表実績 ・日本にも「反セクト法」は必要なのか：統一教会問題とその法的規制，クリスチャン新聞 2022年10月9日号（通巻第2638号） 【1本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
【学外】 2019年～2023年 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 「社会的排除による権利侵害への憲法理論に関する横断的比較法的研究」（研究分担者） 【学内】
(3)特許等取得
(4)学会活動等

5. 地域・社会貢献活動

<ul style="list-style-type: none">・福井県立丸岡高等学校人権研修会「障害と人権～ショウガイシヤって誰のこと？～」(2022年2月10日・丸岡高校にて撮影 ※録画配信)・福井県高等学校演劇連盟脚本講座「表現の自由と人権への配慮」(2022年5月4日・福井商業高校にて実施)

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
ハラスメント等人権問題に関する委員会(法律専門委員)(2020年9月～現在) 大学案内作成WG(2022年4月～現在)
(3)学内行事への参加
オープンキャンパス模擬授業「え！！法学部の無い県大で法学を！？～刑法編～」(7月17日) オープンキャンパス模擬授業「え！！法学部の無い県大で法学を！？～民法編～」(7月17日)
(4)その他、自発的活動など